

2020 年度  
自己点検・評価 報告書

学校法人 麻生塾  
専門学校麻生看護大学校

## 自己点検・評価報告書

この自己点検・評価報告書は、専門学校麻生看護大学校の2020年度の自己点検・評価活動の結果を記したものである。

作成日 2021年2月1日

校 長 安藤 廣美

自己点検・評価責任者

校長代行 藤丸 哲也

### 目 次

I	教育理念・教育目標（人材育成像） .....	- 3 -
II	重点項目 .....	- 4 -
III	基準項目 自己点検・評価 .....	- 5 -
	基準 1 教育理念、目的、人材育成像 .....	- 5 -
	基準 2 学校運営 .....	- 6 -
	基準 3 教育活動 .....	- 7 -
	基準 4 学修成果 .....	- 12 -
	基準 5 学生支援 .....	- 13 -
	基準 6 教育環境 .....	- 14 -
	基準 7 学生募集 .....	- 16 -
	基準 8 財務 .....	- 17 -
	基準 9 法令遵守 .....	- 18 -
	基準 10 内部質保証 .....	- 19 -
	基準 11 社会貢献・地域貢献 .....	- 20 -
	基準 12 国際交流 .....	- 21 -

### 評価結果

S：達成度がきわめて高い

A：ほぼ達成している

B：達成がやや不十分であり、若干改善を要する（要観察：放置すると不適合になる）

C：達成は不十分で改善を要する（不適合）

# I 教育理念・教育目標（人材育成像）

## ＜教育理念＞

専門学校麻生看護大学校は、専門職としての看護に必要な、知識・技術・態度を備えた看護の実践者を育成することを目的としている。

本校の教育は、生命・人間尊重に基づく敬愛の精神を基本姿勢とする。さらに専門職業人としての誇りと責任のもとに、叡智と技を磨き、豊かな感性を身につけ、国際的且つ学際的視野にたち、自己研鑽できる態度を育成することを基本理念とする。

敬愛：他人と自己を同様な存在として敬い、深くいとおしむこと。

叡智と技：物事を正しく判断できる力と、理論を基に安全に、正確に実施できる能力。

豊かな感性：外界の刺激を敏感に受け止め、今そこに起こっている現象にたおやかに反応できる能力。

## ＜教育目的＞

豊かな感性を備え、人間を尊重し、看護に必要な基礎能力を養い、社会の変化に対応できる看護の実践者を育成する。

## ＜教育目標＞

1. 生命の尊厳に対する理解を深め、人としての権利を尊重して行動できる心豊かな人間性を養う。
2. 人々の健康上の問題に対応するために、科学的根拠に基づいた看護を実践できる基礎能力を身につける。
3. 看護職としての役割を認識し、保健医療福祉に対応できる基礎能力を身につける。
4. 看護を発展させるために、常に最新の知識、技術を自ら学び続ける継続的学習の基本的態度を習得する。

## 【アドミッション・ポリシー(入学者受け入れの方針)】

本校は、「生命・人間尊重に基づく敬愛の精神を基本姿勢とし、看護専門職者としての誇りと責任のもと叡智と技を磨き、豊かな感性を身につけ国際的且つ学際的視野に立ち生涯、自己研鑽を続ける姿勢を育成すること」を教育理念とし、次のような人たちを受け入れます。

1. 人の生命・権利を尊び、倫理観を大切にする人
2. 人を尊重し、人間関係のより良いあり方に関心を持つ人
3. 学問追求のための努力をする人
4. 主体的に自らの課題を見出し、自己成長への努力をする人
5. 社会のニーズや看護職を取り巻く状況の変化に興味関心を持つ人

## 【カリキュラム・ポリシー(教育課程編成・実施の方針)】

本校では教育理念に基づき、敬愛・叡智と技・豊かな感性を身につけた看護師を養成するために教育目標のもと、基礎分野・専門基礎分野・専門分野Ⅰ・Ⅱ・統合分野、加えて教科外活動(海外研修、クリスマス病棟訪問等)を構築した。人の一生において、その人らしい人生を送るための支援者としての看護実践者教育を実施します。

### 【ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与方針)】

アドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシーに沿った教育を行い、次のような人材を社会に輩出いたします。

1. 人間を統合された存在として理解した上で、倫理観に基づいた看護を実践できる人
2. 科学的根拠に基づき、看護を計画的・効率的に実践できるよう探究心を身につけた人
3. 看護の独自の機能を駆使しつつ、多職種と連携・協働する姿勢を身につけた人
4. 社会のニーズや変化に対応し、常に専門職者として生涯学習者の姿勢を身につけた人

## II 重点項目

### 1. 重点項目

3-5-4 教員に対して、実務に関する研修等を企業等と連携して行っているか。

4-1-4 退学率の低減の取組みが図られているか。また結果を分析し、退学率の低減の改善を図っているか。

### 2. 取組み状況

新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、学校運営全般を大きく変更せざるを得ない状況が発生し、重点項目についても、十分な改善活動を実施することができなかった。

教員に対する実務研修に関して、病院の受け入れ状況から今年度は見送った。

退学率の低減に関しては、教務会議での学生情報共有の徹底により支援、指導方法の統一を図り、通信課程ではクラス（チューター）運営支援体制を敷き、学生支援を充実させた。

### 3. 総括（成果と課題）

教員の実務研修については、新型コロナウイルスの感染状況、カリキュラムの改定、教員の専門領域を勘案して実施計画を策定していく。

退学率の低減は、今年度の取組みにより一定の成果を上げることができた。今後は学生の修学支援、生活支援の方法について、現状取組みの検証、他校の成功事例研究等により新たな取り組みを模索していくことが課題である。

### Ⅲ 基準項目 自己点検・評価

#### 基準 1 教育理念、目的、育成人材像

##### 中項目 1-1

法人の理念、学校の教育理念、学科の教育目的・育成人材像を定め、学校構成員に周知を図り、社会に公表しているか。

##### 【総括】

法人の理念、学校の教育理念を踏まえ、学科の目的・育成人材像を設定し、学校構成員たる学生、教職員には入学事前説明会、学生要覧、学内専用 web サイトに掲載、入職時オリエンテーション、キックオフを通して周知に努め、非常勤講師・添削指導員・臨地実習指導者には、講師会議等で説明し周知に努めている。公式 web サイト、学校案内パンフレット等で社会への公表を続けている。

##### 【課題】

法人の理念、学校の教育理念を踏まえ、かつ社会構造の変化による関連法規の改定に合わせ、学科の目的・育成人材像を定期的に検証し、常に社会のニーズに合った人材像を設定していくことが課題である。

##### 【今後の取組み】

2022年度、2023年度の看護師養成関連法規の改正に向け、各学科の目的・人材育成像の再設定を行い、ステークホルダーへの周知、社会への公表の準備を行う。

小項目	評価項目	自己点検・評価結果
1-1-1	「法人の理念」を定め、学校構成員（すべての教員、職員、学生）及び関連業界に周知を図り、社会に公表しているか。	A
1-1-2	「学校の教育理念」を定め、学校構成員（すべての教員、職員、学生）及び関連業界に周知を図り、社会に公表しているか。	S
1-1-3	各学科の教育目的および育成人材像を定め、学校構成員（すべての教員、職員、学生）及び関連業界に周知を図り、社会に公表しているか。	S

基準 2 学校運営

中項目 2-1

学校の理念に沿った運営方針を定め、規定通りに運営しているか。

【総括】

学校の運営方針を定め、方針に沿った事業計画を策定し、全教職員へ周知している。

人事に関しては、新型コロナウイルス感染予防の観点で各種対応を行っていたが、人事に関する規則面についても同様に対応を行っていった。各規則については適時共有を行い、運用整備を進めた。

学校業務を支援する事務組織について、運営を円滑に行うため、一部組織、業務分担の変更を行った。

【課題】

新型コロナウイルス感染予防対策や働き方改革に伴い、現状の規程と実態との乖離が見られる部分が出てきている。

変更した事務組織体制により円滑に支援できるようにし、業務に合わせた個人の資質向上のための研修計画の策定と実施、教務と事務との連携強化が課題である。

【今後の取組み】

社会環境の変化と共に人事に関する制度改革が求められるフェーズにあり、2022年度からの新制度施行に向けて着手し始めている。

多様な働き方に対応した学校運営体制の改善を続けるとともに、実行できていない事務職員の意欲・資質の向上を図るための研修計画策定、実施を重点的に取り組んでいく。

小項目	評価項目	自己点検・評価結果
2-1-1	運営方針を策定し周知しているか。	S
2-1-2	運営方針に沿った事業計画を策定し共有しているか。	S
2-1-3	運営組織や意思決定システムを整備し、また有効に機能しているか。	S
2-1-4	情報システム化に取り組み、業務の効率化を図っているか。	A
2-1-5	人事に関する制度を整備しているか。	S
2-1-6	教職員の募集・採用・昇格は適切に行われているか。	A
2-1-7	給与に関する制度を整備しているか。	A
2-1-8	学校業務を支援する事務組織が設置され、十分に機能しているか。	A
2-1-9	事務職員の意欲・資質の向上を図るための方策を講じているか。	A

基準 3 教育活動

中項目 3-1

教育理念、教育目的および育成人材像に沿った教育課程を編成・実施しているか。

【総括】

学校の教育理念、教育目的及び育成人材像に基づくディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーを策定し教育課程を編成、実施している。両ポリシーはホームページ上に明示し、社会に公表している。

2022年度のカリキュラム改正にて求められる看護基礎教育を本校の教育理念に沿った教育課程を編成すべく検討を重ねている。

【課題】

求められる看護基礎教育と教育理念から教育課程まで一貫性があるか、効果的な教育が実施できるかの検証が課題である。

【今後の取組み】

現教育課程から新教育課程への移行に向けた準備に取り組んでいく。

小項目	評価項目	自己点検・評価結果
3-1-1	教育目的および育成人材像に基づきディプロマ・マポリシーを明示し、また学校構成員（教職員および学生等）に周知し、社会に公表されているか。また定期的に検証を行っているか。	S
3-1-2	教育目的および育成人材像に基づき教育課程の編成・実施方針（カリキュラムポリシー）を明示し、また学校構成員（教職員および学生等）に周知し、社会に公表されているか。また定期的に検証を行っているか。	S

中項目 3-2

教育課程の編成・実施方針に基づき、教育課程・教育内容は適切に行なっているか。

【総括】

教育課程はカリキュラム・ポリシーに基づき、体系立てて編成・実施している。実施した教育については、教育課程編成委員会を実施し外部有識者からの意見も取り入れつつ、教務会議にて進捗状況が計画した進捗表、シラバス通りに進んでいるか、教育内容、方法、指導が適切であったかを評価・検証しているが、新型コロナにより授業進度に影響が出、評価・検証が不十分であった。

リメディアル教育は、早期に入学が決定した方を対象に看護に興味関心を持つ教育を実施し、キャリア教育については、教育課程、学校行事を通して職業観や主体的に自らキャリアを切り拓いていく姿勢を身につける教育を行っている。

【課題】

新型コロナウイルス感染が収束しない中、教育課程、学校行事が従来のように実施できないため、いかにして教育目標を達成し、職業観を身に付け、主体的に行動できる学生を育成するかが課題である。

【今後の取組み】

従来の対面での教育方法に加え、遠隔での効果的教授方法や主体的に学習に取り組む姿勢を身につけるための仕組み、キャリア教育の在り方を模索、検討していく。

新型コロナの影響で授業進度に変更が生じた場合、教育内容、方法が適切で効果があったのかをより細かく評価・検証していく必要がある。

小項目	評価項目	自己点検・評価結果
3-2-1	教育課程の編成・実施方針に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	S
3-2-2	業界のニーズを踏まえ、実践的な職業教育の視点に立った教育内容（学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保等）が提供されているか。	S
3-2-3	専攻分野に関する企業・関係施設等や業界団体と連携して教育課程の編成を行っているか。	S
3-2-4	教育方法および学習指導は適切か。	S
3-2-5	授業はシラバスに基づいて授業が展開されているか。また学校構成員（すべての教員、職員、学生）に周知を図っているか。	A
3-2-6	リメディアル（導入前教育、補習）教育を行っているか。	S
3-2-7	専攻分野における実践的な職業教育（インターンシップ、企業等と連携した実習・演習等）が体系的に位置づけられ、実施しているか。	S
3-2-8	キャリア教育を行ない、学生の社会的・職業的自立に向け必要な基盤となる能力や態度を育成しキャリア発達を促しているか。	S



中項目 3-3

教育の評価を適切に行っているか。

【総括】

教育の評価は、カリキュラム会議にて教育課程全般、教務会議等にてシラバスの評価を行っており、科目ごとの学生による授業アンケート、クラス担任の教員についてはクラス運営等に関するアンケートにて教育方法、スキル等の評価を行っている。外部に依頼している短時間の授業については、試験結果と学生への聞き取りを授業評価としている。

【課題】

カリキュラム改正及び新型コロナウイルスの影響により教育内容、教育方法の大幅な変更を要するため、授業の評価方法も ICT を活用する等、新たな評価方法を構築していくことが課題である。

【今後の取組み】

新型コロナウイルスの影響で実施した授業の評価と改善、カリキュラム改正後の教育課程、学習進度を見据えた授業計画、実施、評価の体制の構築に取り組んでいく。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
3-3-1	授業評価の実施・評価体制はあるか。	A
3-3-2	授業科目の目標に照らし、授業内容・授業方法の改善を図るための取り組みを行っているか。	S

中項目 3-4

成績評価と単位認定を適切に行っているか。

【総括】

各科目の成績評価の方法はシラバス等にて学生に明示し、単位認定会議、卒業判定会議は毎年度末に規程に従い厳格に実施している。2020年度より施行の「科目履修、単位認定及び卒業に関する規程」に不備、不具合がなかったかの検証を行う。

【課題】

科目によって評価者の人数、配分、評価方法も異なるため、学生が出席日数の把握を間違いなく主体的に行うようになることが課題である。

【今後の取組み】

カリキュラム改正後を見据え、成績評価の方法について、規程の再検証を行う。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
3-4-1	成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか。	S
3-4-2	各規定に基づいて適切に成績評価・単位認定、進級・卒業判定を行っているか。	S

中項目 3-5

教育活動を確実に実践するために、教育体制の整備を適切に図っているか。また教職員の能力開発のための資質向上の取り組みを行っているか。

【総括】

保健師助産師看護師学校養成所指定規則、その他学校運営に係る法律、ガイドラインに則り各分野・専門領域の専任教員、非常勤講師、添削指導員を配して運営を行い、カリキュラム上学生に不利益なく適切に実施している。通信課程においては、カリキュラム上、学生に不利益なく適切に実施できているが、専任教員の組織体制が不十分な状況にある。

新型コロナウイルスの影響で教員の専門性を高める研修、学会の殆どがWEB開催となったため、多くの研修に参加することができた。また、臨床現場から離れた教員の臨床研修も感染拡大防止のため実施を見合わせた。

【課題】

新入教職員の教育現場への順応を支え、指導力を身に付けることが課題である。

【今後の取り組み】

新入教職員へ適切な時期に十分に業務に関する説明を実施すること、業務担当を適切に配分すること、指導するチューターを配置し、定期的に面談を実施すること、指導力を高める研修等への積極的な参加を促す。

小項目	評価項目	自己点検・評価結果
3-5-1	法令に則りかつ学校の理念・目的の達成に必要な教育課程の種類・分野・学生数を考慮しながら必要な教員組織を構築しているか。	A
3-5-2	教員の組織体制を整備しているか。	A
3-5-3	教員の専門性や指導力等の維持、資質向上のための方策を組織的、多面的に実施し、教職員及び組織の改善につなげているか	S
3-5-4	教員に対して、実務に関する研修等を企業等と連携して行っているか。	S

基準 4 学修成果

中項目 4-1

学科ごとに学生の学修成果を中心とした目的・目標を設定して教育活動を行い、多様な視点から成果の達成状況を把握し、改善に活用しているか。

【総括】

学修成果として国家試験合格を目標に掲げ、学科の試験、模試の結果を分析、強化が必要な学生へ分野・科目ごとに補講等の対策を講じる体制を整え実行している。看護科は2019年度も100%、通信課程も過去最高の実績を残すことができ、今年度も順調に国家試験に向かい取り組んでいる。

また、退学率の低減に向けての取り組みの結果、一定の成果を上げることができた。

【課題】

今年度卒業の学生の専門職としてのキャリア形成への適応性を注意深く見守り、就職先との連携を図り支援していくとともに、それを踏まえた在校生のキャリア教育の在り方の改善を図るのが課題である。

【今後の取り組み】

多様な背景を持つ学生に対し、早期に看護専門職者を目指す意識を持たせ、主体的に学習を行うことができるよう具体的支援策を検討していく。

小項目	評価項目	自己点検・評価結果
4-1-1	就職率・就職者の割合の向上と取り組みの成果を上げているか。また結果を分析し、就職指導・支援の改善を図っているか	S
4-1-2	資格取得率・資格試験および公務員合格率・コンテストおよびコンペ入選の向上と取り組みの成果を上げているか。また結果を分析し、教育活動および学生支援の改善を図っているか。	S
4-1-3	資格取得等に関する実施体制およびカリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか。	S
4-1-4	退学率の低減の取り組みが図られているか。また結果を分析し、退学率の低減の改善を図っているか。	S
4-1-5	卒業後の専攻分野におけるキャリア形成への適応性、効果を把握しているか。また、それを踏まえ教育活動等の改善を図っているか。	S
4-1-6	卒業生の専攻分野における社会的評価を把握しているか。	S

基準 5 学生支援

中項目 5-1

学生に対する修学支援、生活支援、進路支援に関する支援組織体制を整備し、学生が学修に専念し、安定した学生生活を送ることができるように図っているか。

【総括】

今年度は新型コロナウイルスの影響で修学支援、進路支援、学生相談、経済的側面に対する支援、健康管理、生活環境、保護者との連携、すべての面で従来の支援とは異なった方法、新たな支援が必要となった。卒業生への支援が十分に行えず、課外活動を行うことができなかった。

【課題】

今年度行った新たな支援方法の検証と、引き続き、コロナ禍での学生への効果的な各種支援、卒業生への支援を実施していくことが課題である。

【今後の取組み】

保護者との連携について、新たな連携方法の構築と、特に今年度卒業する学生への支援を積極的に行っていく。  
卒業生との懇親会をリモートで実施するなど支援方法を検討する。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
5-1-1	学生への修学支援を適切に行っているか。	A
5-1-2	学生の進路支援を適切に行っているか。	S
5-1-3	学生相談に関する体制を整備しているか。	S
5-1-4	学生の経済的側面に対する支援制度を整備し、適切に運営しているか。	S
5-1-5	学生の健康管理を担う組織体制はあるか。	S
5-1-6	学生の生活環境への支援を行っているか。	S
5-1-7	保護者との連携を適切に行っているか。	S
5-1-8	卒業生・社会人への支援体制を整備しているか。	S
5-1-9	学生の課外活動に対する支援を適切に行っているか。	S

基準 6 教育環境

中項目 6-1

教育運営に支障を生じさせないように教育設備を整備しているか。

【総括】

看護師養成に必須の実習室内の設備備品、図書等については、年2回の点検により維持管理を行い、教育運営に支障を生じさせないようにしている。

今年度はすべての教室の床の張替え、不具合のある椅子の交換、天吊りプロジェクターの設置、換気機能の修繕強化を行い、効果的に、快適に学習できるよう環境整備を行った。

【課題】

新型コロナウイルスの影響により学び方の変化が進んでいるため、学習の理解度を深める、DVD教材等効果的な補助教材を整備し、学生が積極的に活用する環境を整えることが課題である。

【今後の取組み】

経年劣化した施設設備を順次改修していき、環境を整えるとともに、視聴覚教材を充実させICTを活用した教材を充実させる取組みを行っていく。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
6-1-1	教育上の必要性に対応した施設・設備を整備し、維持・管理、安全・衛生を確保しているか。	S
6-1-2	教育上の必要性に対応した機材・備品を整備しているか。	S
6-1-3	図書室・図書コーナーがあり、図書館サービスは十分に機能しているか。	A

中項目 6-2

教育環境を適切に維持しているか。

【総括】

教育課程に沿った臨地実習を行うため、実習の目的、目標、実習評価等について臨地実習要綱にまとめ学生へ提示し、実習施設及び実習指導者へは実習前に事前に要綱に基づく時期、期間の協議、指導方法の説明等を行い、協定書を結んで実施している。今年度は特に新型コロナウイルス感染拡大防止のため、臨地実習の多くを臨床から学内へ切り替え、各教室へ消毒液を設置、健康管理体制の強化等行った。学校における安全管理については、防火・防犯設備は年2回の定期点検を行い防火管理者が確認を行っている。

【課題】

従来の安全対策に加え、引き続き新型コロナウイルス感染拡大防止策を講じた上での充実した教育環境の提供を行っていくことが課題である。

【今後の取組み】

臨地実習に関しては、新型コロナウイルスの感染状況を考慮し、実習施設と協議しながら実施していく。また、安全管理に関しても引き続き感染防止策を最優先して実施していく。

小項目	評価項目	自己点検・評価結果
6-2-1	実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか。	S
6-2-2	学校における安全管理の整備を行っているか。	S

基準 7 学生募集

中項目 7-1

学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集および入学者選抜を行っているか。

【総括】

アドミッション・ポリシーは、公式ホームページや学校案内パンフレット、募集要項に記しており、幅広く周知し、募集活動はオープンキャンパスや九州各地での説明会にて本校の教育内容、教育の成果等をより正確に提供するように心掛けている。入学者選考においては、基礎学力、学習継続能力、コミュニケーション能力や学習意欲を評価する基準を設け公正な選考をおこなっている。

今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、オンラインでのオープンキャンパスや説明会を実施し、本校の情報を提供できるよう努め、入学選考についても徹底した防止策を講じた上で実施した。

【課題】

コロナ禍で本校の教育内容、教育の成果をいかに正確に安全に提供できるか、また、安心してオープンキャンパス等に参加していただき、本校の魅力を伝えるかが課題である。

【今後の取組み】

従来の募集媒体に加え、本年度から取り組んでいるオンライン説明会、映像を活用して本校教育内容について、より安全に効果的に伝わる活動を行っていく。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
7-1-1	入学者受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）を策定し、学校構成員（教職員および学生等）に周知し、社会に公表しているか。	S
7-1-2	募集活動において、教育成果は正確に伝えているか。	S
7-1-3	学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集を行っているか。	S
7-1-4	学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に入学者選抜を行っているか。	S
7-1-5	学生納付金等は妥当なものとなっているか。	S



基準 8 財務

中項目 8-1

教育活動を安定的かつ継続的に進めるため、財務基盤が安定し、適正な財務管理、監査の実施及び情報の公開を行っているか。

【総括】

財務諸表等に見る学校の財務基盤は安定しており、学生に必要なかつ快適な教育環境を提供できる財務体質を備えている。監査の実施については、私立学校法及び寄付行為に基づき監事による会計監査が適切に行われており、監査報告書を受領している。情報の公開については、ホームページにて貸借対照表、収支計算書、財産目録、監査報告書を適切に公開している。

【課題】

安定的かつ継続的な財務基盤により、安全安心な教育環境を整備していくことが課題である。

【今後の取組み】

今後も予算決算管理及び昨年度対比による分析等の取り組みを継続的に行っていく。その分析等により重要な差異や変動を把握するとともに、対応策の検討、実施により、外部環境の変化等に耐え得る安定した財務基盤の維持を図っていく。

小項目	評価項目	自己点検・評価結果
8-1-1	教育活動を安定して遂行するために必要かつ十分な財政的基盤を確立しているか。	S
8-1-2	予算計画は有効かつ妥当なものとなっているか。また予算執行を分析・検証する仕組みの確立がなされているか。	S
8-1-3	私立学校法及び寄付行為に基づき適切に監査を実施し、理事会、評議員会に報告しているか。	S
8-1-4	財務情報公開の体制を整備し、適切に公開しているか。	S

基準 9 法令遵守

中項目 9-1

法令、専修学校設置基準等を遵守し、適正に学校運営を行なっているか。

【総括】

「保健師助産師看護師学校養成所指定規則」、「看護師養成所の運営に関する指導ガイドライン」、「専修学校設置基準」「福岡県私立専修学校設置認可取り扱い基準」に定められた規定を遵守して運営を行っている。その他、個人情報保護、ハラスメント防止、リスクマネジメントに関する規程、各種マニュアルを整備し、教職員の研修等を行っている。

【課題】

社会情勢の変化により 2022 年度に看護師養成所のカリキュラム改正が行われる。改正に関する情報収集を行い、社会の求める看護師を育てる学校づくりのための準備を引き続き行っていくことが課題である。

【今後の取組み】

カリキュラム改正に向け、本校独自の教育課程の確立、法令を遵守した運営を行っていくための学則、規程の整備を行っていく。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
9-1-1	法令、専修学校設置基準等を遵守し、適正な学校運営を行っているか。	A
9-1-2	関係法令に基づく管理運営に関する学内諸規程を整備し適切に運用しているか。	S

基準10 内部質保証

中項目10-1

教育の質を保証する仕組みを構築し、教育内容等について自己評価を行い、課題解決に取り組んでいるか。また、教育情報を積極的に公開しているか。

【総括】

教育の質保証の仕組みとして、自己点検・評価、学校関係者評価を行い、ホームページ上で社会に公表している。

今年度も全教職員で自己点検・評価を行い、教育の質の向上のための改善項目の点検、共有を行った。

【課題】

年度途中の課題解決に向けた取り組み状況の共有がなされておらず、年間を通して自己点検の意識を持ち、改善活動を行うことが課題である。

【今後の取組み】

期中での改善活動の情報の共有の場を設け、進捗状況の確認、不足している活動について共同して実行する意識を持ち、改善活動を維持・向上させるよう取り組んでいく。

小項目	評価項目	自己点検・評価結果
10-1-1	学校教育、学校運営について、自己点検・評価を実施し、さらに課題解決に取り組んでいるか。	A
10-1-2	学校関係者評価の実施体制を整備し、学校関係者評価を実施し、改善の取り組みを行っているか。	S
10-1-3	自己点検・評価及び学校関係者評価の結果を公表することで社会に対する説明責任を果たしているか。	S

基準 1 1 社会貢献・地域貢献

中項目 1 1 - 1

公共的な機関として、資源を活用して社会的な活動や地域貢献活動を行っているか。

【総括】

社会貢献・地域貢献活動として、行政、看護協会等からの依頼による看護教員教育や准看護師研修会への講師の派遣、高等学校等で行われる職業教育に関する講師の派遣を行っているが、今年度は新型コロナウイルスの影響により、職業教育に関する講師派遣、学生のボランティア等満足 of いく活動ができなかった。

【課題】

コロナ禍において本校が取り組める社会貢献・地域貢献活動の在り方を検討、新たな取り組みを実施する体制を整えることが課題である。

【今後の取組み】

看護専門職者として期待される役割、新型コロナウイルスを意識して、全教職員、学生により感染蔓延状況下でもできる活動を模索していく。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
1 1 - 1 - 1	公共的な機関として、社会貢献・地域貢献を行っているか。	S
1 1 - 1 - 2	学生のボランティア活動を奨励、支援しているか。	S

=====  
基準 1 2 国際交流  
=====

中項目 1 2 - 1

留学生の受け入れ、海外への留学における学習支援や生活指導等を適切に対応し、管理体制を整備しているか。

【総括】

本校はアメリカコロラド州デンバーにある Spring International language Center (語学学校) への1年間の語学を中心とした留学を平成8年より継続させている。留学生は定期的に学校と連絡を取り、留学先では在住日本人の方へ相談できるなどのバックアップ体制を敷いている。SILCでは本校独自のプログラムとして、医療・看護、社会制度の学習、医療・福祉現場の見学も含む学習が一定条件により可能である。

本年度は新型コロナウイルスの影響で、長期留学、法人主催の短期語学留学、日本に留学している外国の方との交流もすべて見合わせた。

【課題】

コロナウイルス感染症終息後の活動再開の準備を行うとともに、コロナ禍においてできる異文化交流、国際交流を新たに作り出すことが課題である。

【今後の取組み】

コロナ禍であるからこそ、グローバルな視点を持ち、専門性を有効に活用して社会・地域貢献ができる活動ができないかを模索していく。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
1 2 - 1 - 1	留学生の受け入れ、在籍管理等において適正な手続きを行っているか。	-
1 2 - 1 - 2	留学生に対する相談体制を整備しているか。	-
1 2 - 1 - 3	海外留学プログラムに対する支援を適切に行っているか。	S